

1)メモリからレジスタファイル (RF) もしくは、レジスタファイル (RF) からメモリへの転送命令では、メモリアドレスがソースオペランドの一つである。3.1.2の実際の例では、メモリアドレス=レジスタの値+即値 のように計算するが、これはどのようなメリットがあるのか？

選択肢 未 です。

メモリを指定できる範囲が増えるから。
32ビット以上のアドレスを指定する場合、固定長の命令語ではビットが不足してしまう。

解説 [» 全体を表示](#)

記述式

R形

op(6)	rs(6)	rt(6)	rd(6)	aux(8)
-------	-------	-------	-------	--------

I形

op(6)	rs(6)	rt(6)	imm/dpl(14)
-------	-------	-------	-------------

A形

op(6)	addr(26)
-------	----------

※命令語が32ビットの場合

3) 図 3. 2 のA形式でJUMPできるメモリ空間はどこからどこまでか？

選択肢 未 です。

0番地から $2^{26}-1$ 番地まで

解説 [» 全体を表示](#)

記述式

4) メモリアドレスがバイト (8ビット) ごとに、付けられているシステムでは、32ビット命令を示すPCの値は 0 → 4 → 8 → 12...のように4ずつ上昇します。これを利用して何かの改善はできるか？

選択肢 未 です。

32ビット(メモリアドレス4つ分)を一つと見なすことで、命令数で数えることができる。

解説 [» 全体を表示](#)

記述式

5) 32ビットアドレス空間の0番地から最大アドレス4G-1へJUMPしたければどうすればよいか？

選択肢 未 です。

256MBの最大アドレスへJUMPした後、JUMP後のアドレスにNOPを入れる。すると、256MB以上のアドレスに移動することができる。JUMPでは256MB分しか移動できない。よってこの作業を4G-1のアドレスにたどり着くまで繰り返す

解説 [» 全体を表示](#)

記述式